

【地拵①+②】川湯担当区4249な林小班

面積	8.16ha	
植生	ミヤコザサ	
作業	H28年度	地拵①、地拵②
	H29年度	植栽（樹種：グイマツF1、仕様：1.5m刈×1.5m残）
下刈の省略に対する判断等		
H29年度	<p>結果：下刈1回（標準）を0回とし目標達成 理由：植生の回復が全般的に遅いため下刈不要と判断。</p>	
H30年度	<p>結果：下刈2回（標準）を1回とし目標達成 理由：地拵①ではササが50cm程度回復、地拵②ではアザミ、オオヨモギ、オオブキ等が新たな植生として発生した。以上の状況を踏まえても下刈を1回省略して問題ないと判断</p>	
R元年度	<p>結果：下刈1回（標準）実施 理由ササの生長や他の植生状況を勘案し判断。しかし植栽木が80cm以上に達している状況も見られたことから下刈を省略できた可能性あり</p>	
まとめ		
<p>標準的なカラマツの下刈回数目安（※注）は植栽した年を含めて4年で5回となるが当該箇所においては3年目の下刈が不要と判断していた場合1回のみで下刈終了という大幅な削減が達成されていたことになる。</p> <p>※注：グイマツF1はカラマツの改良種のためこれを適用して考察</p>		

【地拵①】 弟子屈担当区4074ほ林小班

面積	5.52ha	
植生	ミヤコザサ	
作業	H28年度	地拵①
	H29年度	植付（樹種：トドマツ、仕様：6.0m刈×3.0m残）
下刈回数の省略に対する判断		
H29年度	<p>結果：下刈1回（標準）を0回とし目標達成 理由：ササの回復のほか、スゲ、イラクサ、キイチゴ等が新たな植生として発生していたがそれらの生長は全般的に弱く下刈不要と判断</p>	
H30年度	<p>結果：下刈2回（標準）を1回とし目標達成 理由：ササ等が植栽木と同程度まで生長したが下刈1回を省略して問題ないと判断</p>	
R元年度	<p>結果：下刈2回（標準）を1回とし目標達成 理由：ササ等が植栽木と同程度まで生長したが下刈を1回省略して問題ないと判断</p>	
まとめ		
<p>標準的なトドマツの下刈回数の目安は植栽した年度を含めて3年目までで見た場合5回となるが、当該箇所においては2回で済んでおり3回分の削減が達成できた。但し植栽木の中には先端枝にダメージを受けているものが一定程度確認されている状況もあり今後の推移を注意深く観察していく必要がある。</p>		

【地拵②】 標茶担当区307ほ林小班

面積	84.58ha	
植生	ミヤコザサ	
作業	H29年度	地拵②
	H30年度	植付（樹種：トドマツ、仕様：6.0m刈×14.0m残）
下刈回数の省略に対する判断等		
H30年度	結果：下刈1回（標準）を0回とし目標達成 理由：スゲが新たな植生として発生していたがその生長は弱く下刈不要と判断	
R元年度	結果：下刈2回（標準）を1回とし目標達成 理由：スゲが植栽木と同程度まで生長、アザミ、オオヨモギ等が新たな植生として部分的に発生した。以上の状況を踏まえても下刈を1回省略して問題ないと判断	
まとめ		
標準的なトドマツの下刈回数目安は植栽した年を含めて2年目までで見た場合3回となるが当該箇所においては1回で済んでおり2回分の削減が達成できた。但し植栽木の中には先端枝にダメージを受けているものが一定程度確認されている状況もあり今後の推移を注意深く観察していく必要がある。		